

北海道大学創成研究機構にワクチン研究開発拠点を設置

～人獣共通感染症に対する「先回り戦略」で国産ワクチン開発の貢献に期待～

【概要】

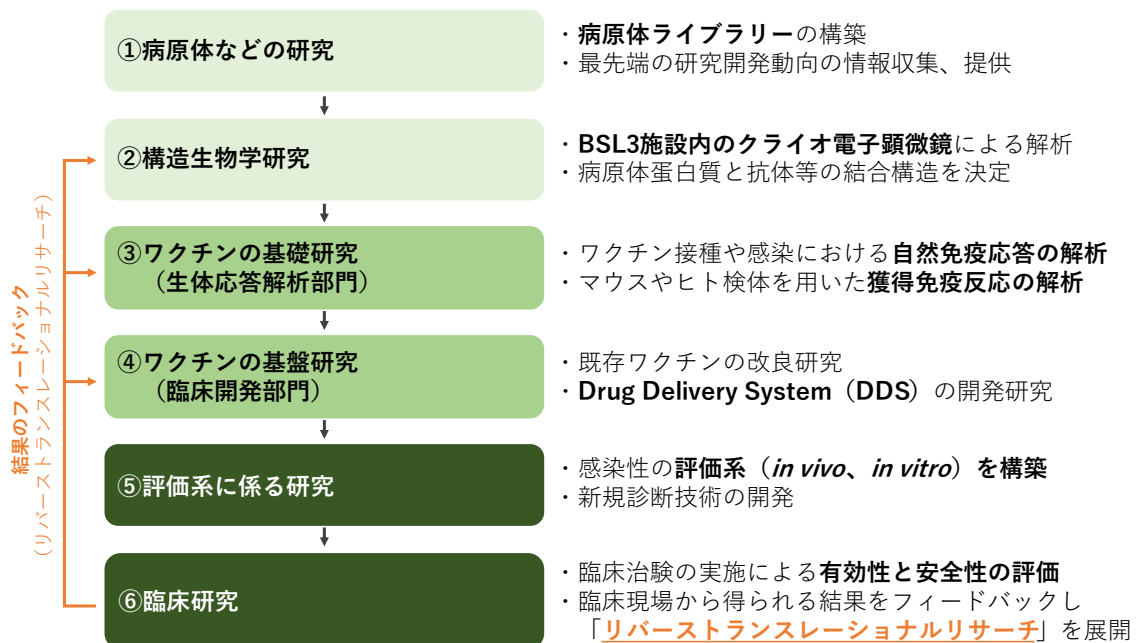
北海道大学は、日本医療研究開発機構（AMED）「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業*¹」において、東京大学（フラッグシップ拠点）、大阪大学・千葉大学・長崎大学（シナジー拠点）とともに、シナジー拠点として採択されたことに伴い、令和4年10月1日（土）、創成研究機構にワクチン研究開発拠点（以下「本拠点」）を設置しました。

本拠点では、ヒトに感染症を引き起こす可能性のある病原体のライブラリーを予め整備し、ワクチン開発に資する基礎研究の推進を通じて得られた成果を導出し、社会に実装する「先回り戦略」を実施します。

【活動内容】

本拠点は、国産ワクチンの開発に向けて「ワクチンの開発・生産に資する革新的研究開発の推進」「産学官・臨床現場との連携による実用化、人材育成に向けた体制構築」「国内外の最先端の研究開発動向に関する情報収集・分析」のミッションを以下に示すフローで推進します。

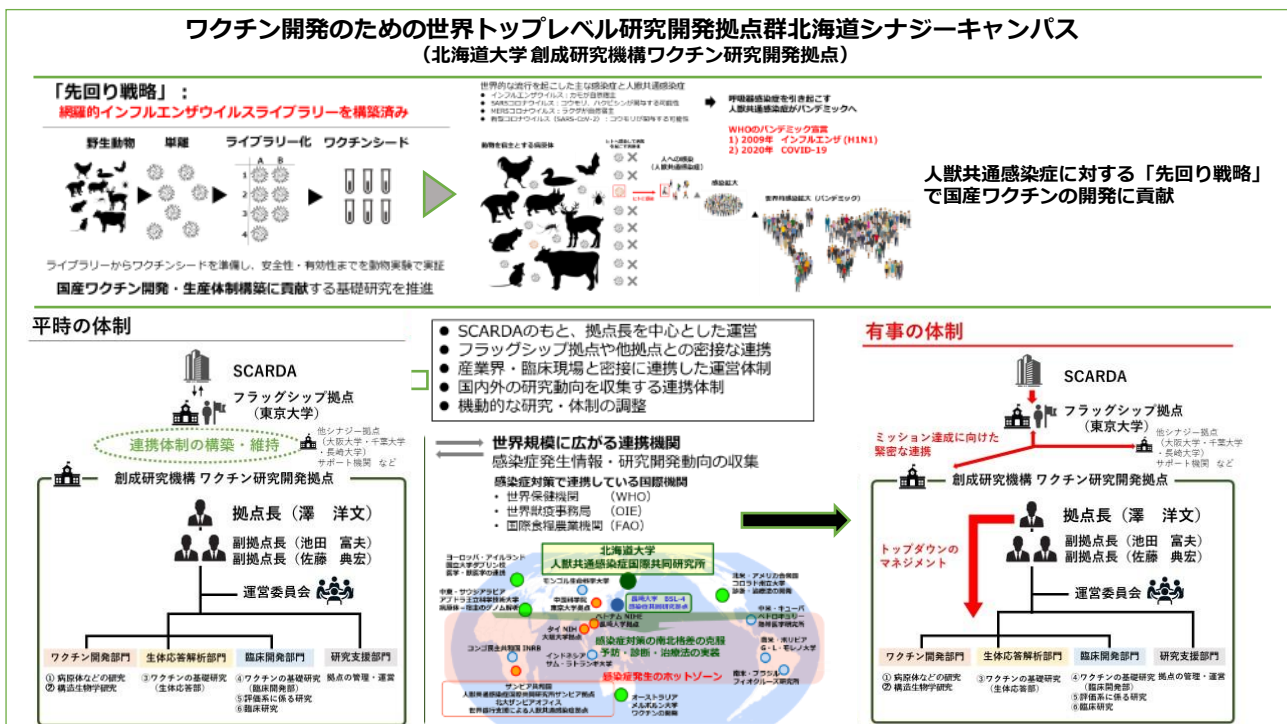
本拠点における研究開発のフロー



【推進体制】

本拠点は、AMED に設置された先進的研究開発戦略センター (SCARDA) のマネジメントに沿って、拠点長である本学人獣共通感染症国際共同研究所副所長の澤 洋文 (さわひろふみ) 教授を中心に、産業界及び臨床現場とダイレクトに連携した運営体制を構築するとともに、国内外の研究動向や研究進捗に応じて機動的に研究・体制を調整して成果を挙げることを目指します。

また、本拠点内にワクチン開発部門、生体応答解析部門、臨床開発部門を設置し、それぞれミッションをもって研究開発に取り組みます。なお、各部門の統括は澤拠点長及び副拠点長であるデンカ株式会社の池田富夫 (いけだとみお) 氏、北海道大学病院臨床研究開発センター長の佐藤典宏 (さとうのりひろ) 教授が務め、研究の進捗を管理します。



【将来展望】

これらの活動により得られる成果を基盤として、臨床現場と基礎研究の密接な連携体制を構築するほか、診断～ワクチン開発～生体応答までを網羅的に対象とする技術を開発する基盤的知見の集積と実装を行うとともに、病原体に紐づくワクチンシードの情報を先回りで収集・活用できる基盤を整備します。さらに、トップレベル研究開発拠点群の若手研究者と外国籍研究者の連携による国際感染症対策ネットワークを基盤とする世界レベル感染症対策プラットフォームを構築します。

お問い合わせ先

北海道大学創成研究機構ワクチン研究開発拠点 研究支援部門長 鈴木定彦 (すずきやすひこ)
T E L 011-706-7315 F A X 011-706-7310 メール suzuki@czc.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学社会共創部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp

【用語解説】

- *1 ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 … 「ワクチン開発・生産体制強化戦略」（令和3年6月1日閣議決定）を踏まえ、国産ワクチン等の実現に向け、世界トップレベル研究開発拠点（フラッグシップ拠点、シナジー拠点）や研究開発をサポートする機関の整備等を行うとともに、平時から同研究拠点を中心として、出口を見据えた関連研究を強化・推進することを目的とした事業。